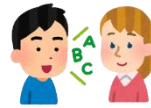


Q08

英語学習の方法と工夫について



聴覚障害がある児童生徒が英語を学習する際に大切なことは、音声だけに頼らず視覚的な情報を活用することです。



1、英語の読み方を視覚的に学ぶ

(1) 「ルビ（ふりがな）」

英語で書かれた単語や文章にルビを振ることは、読み方を把握する手がかりになります。読み方がわかると文章全体を理解しやすくなり、読むスピードが上がります。また、単語や文を自分で読み進められるようになることは自主学習の自立にもつながります。

ルビと単語の綴りの両方に目を向けながら読んだり、ルビのない状態の単語や文を読んだり、ルビがなくても読めるようになるための工夫が必要です。

(2) 「発音記号」と「口の断面図」

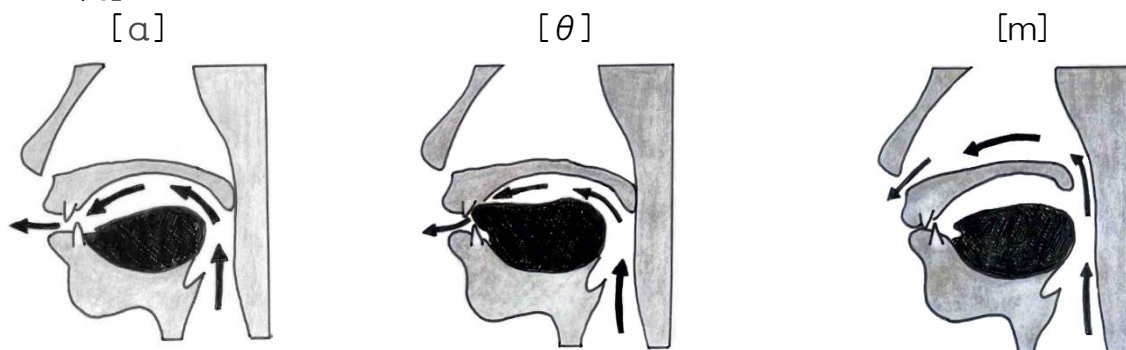
発音記号は発音を記号で表したものです。日本語にない音なども含めて視覚的に発音を確認できるようになるため、単語を発音する際の手がかりになります。

英語の発音は、舌の位置・唇の形・口の開きなどが組み合わさって成り立っているため、口の断面図を参照することで発音の際の舌の位置・口内の様子を視覚的に捉えることができます。聾学校の英語学習では、図と同じように口の形を再現できれば「発音できた」と見なしして評価しています。

【発音記号の例】

単語	発音記号	音の出し方
father	[ɑ]	あくびをするときに出る「アー」のような音
think	[θ]	上歯と舌先を近づけて空気が通るときのこすれたような音
arm	[m]	唇を閉じて鼻から空気が出るときの音

【断面図の例】



※ ← は、空気の流れ

(3) 「フォニックス」

フォニックスは「文字や文字の組み合わせがどんな音になるか」といったルールから“読み方のコツ”をつかむ学習方法です。このルールがわかるようになると文字から発音を推測しやすくなります。

【文字の音（フォニックス読み）の例】

アルファベット	a	b	c	d	e	f	g
文字の名前	エイ	ビー	スィー	ディー	イー	エフ	ジー
文字の音（フォニックス読み）	アエ	ブ	ク(ス)	ド	エ	フ	グ(ジュ)

例 bag → b + a + g (ブ アエ グ)

【文字の組み合わせの音の例①～2文字母音/ r のついた母音】

文字の組み合わせ	音	単語（読み方）
ee	イー	see（シー）、feel（フィール）
ar	ア～	art（ア～ト）、card（カ～ド）

文字の組み合わせと発音の関係には例外もあるので個別に確認が必要です。

例 war → ar を [ɔ:]（オー）と [r]（舌を軽く巻く）を合わせて [wɔ:r] と発音します。

【文字の組み合わせの音の例②～文字を読まないケース】

サイレントk			サイレントw		
k + n の並びのとき、 k は発音せず、n だけを読む。			w + r の並びのとき、 w は発音せず、r だけを読む。		
単語	音	発音記号	単語	音	発音記号
know	ノウ	[nou]	write	ライト	[rait]
knife	ナイフ	[naif]	wrestling	レスリング	[reslin]

(4) 「シラブル（音節）」

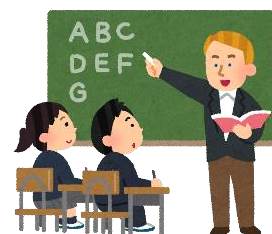
英語学習におけるシラブルとは1つの母音を中心にまとまった音の単位です。シラブルに分けることで、単語を音のまとまりごとに区切って理解できるようになり、アクセントの強弱を視覚的に把握できます。アクセントの強弱を手を叩く強さに置き換えて、体感的に捉えるなどの工夫を取り入れることも効果的です。

例 vacation 音 節： va - ca - tion
発音記号：[vəˈkeɪʃən] ' (記号) の後の音節が強い
ル ビ： ヴァ ケイ シュン
強 弱： ・ ○ ・ ○は強く言う音節 ・は弱く言う音節

手を叩く大きさ 

2、学校の授業における対応の工夫

板書やスライド、絵カード、画像、動画などの視覚教材を活用することのほかに、教師が児童生徒に口形が見えるように話す工夫（リップリーディング）が挙げられます。ペア活動などの会話練習の場面では、児童生徒が取り組みやすくなるよう、会話カードやロールプレイ用の台本を用いて例文やトピックを視覚化することも効果的です。音声教材については下記3をご参照ください。



3、音声教材

(1) 「再生速度や音量の調整」

タブレットなどで英単語や英文を再生し発音を聞き取るときは、再生速度をゆっくりにしたり音量を大きくしたりして、聞き取りやすくなるよう調節することが大切です。

(2) 「Bluetooth や補聴援助システム（ロジャーマイクなど）を使って、補聴機器に直接音を届ける」

英語は日本語と比べ、f、s、thなどの聞き取りにくい音が多いです。そのため、補聴機器に直接音を届ける方法は「雑音のないクリアな音を直接聞ける」「アクセントやイントネーションをより正確に捉えやすい」などの良さがあります。



4、自主学習の際の工夫

英語のリズムや発音を学ぶ方法として、発音アプリの活用が有効です。また、英単語や英文を書いて覚えるなど、書く活動を多めに取り入れると語彙や文法が定着しやすくなります。英語で書かれた絵本や絵辞典などを取り入れることで学習の幅が広がります。



自分に合った学び方を選べる環境を整えることで、児童生徒が英語学習に主体的に取り組めるようになります。

